

東区と祭

～天王祭を中心に～



- 御城下山車祭りの歴史
- 東区の山車の由来や歴史

令和6年12月13日

神皇車保存会 大内裕二

画像提供 「尾張の山車まつり」

1. はじめに

尾張には200輦を超える山車が存在する。まさに、当地方は山車の宝庫といえる。

戦前の日本四大祭を挙げれば、東京の天下祭(山王祭、神田祭)、京都の祇園祭、大阪の天神祭、そして名古屋の東照宮祭である。天下祭には80輦余の山車が曳かれたと記録されている。これらの四大祭は山車が中心の祭礼である。

当地方の祭礼は名古屋御城下に発展した東照宮祭(名古屋祭)の影響を受けて始められたといわれる。この東照宮祭の山車にはからくり人形が載せられた。尾張一円の山車を見ると、大半の山車にはからくり人形が載せられている。この事例をみても東照宮祭の影響の大きさを知ることが出来る。

東照宮祭・若宮祭・三之丸天王祭(現:那古野神社例祭)の名古屋三大祭や熱田大山祭など隆盛を極めた山車は70輦余を数える。太平洋戦争でそのほとんどを焼失したことは誠に残念なことである。

名古屋旧城下町と旧熱田町に於ける山車祭りと山車の調査記録

2019.12.31

名古屋三大祭 38輛		他の地区の祭礼	
東照宮祭(名古屋祭)9輛	若宮祭 9輛	三之丸天王祭(後の那古野祭) 20輛	熱田大山祭 9輛
七間町 橋弁慶車 戦災焼失	末広町 黒船車 戦災焼失 (先代車を美濃へ譲渡)	車楽 2輛	田中町 田中大山 戦災焼失
伝馬町 林和靖車 戦災焼失	中須賀町 寿老人車 戦災焼失	見舞車 18輛	大瀬子町 大瀬子大山 廃車
和泉町 雷電車 戦災焼失	上玉屋町 西王母車 戦災焼失 (後に那古野祭の祭車となる)	名古屋村 先御車 広井村 (高砂車) 車ノ町 戦災焼失	旗屋町 旗屋大山 廃車
上長者町 二福神車 戦災焼失	下玉屋町 布袋車 有松へ譲渡	益屋町 鞆猿車 美濃へ譲渡	市場町 市場車楽 廃車
桑名町 湯取神子車 戦災焼失 (先代車を筒井町へ譲渡)	大久保見町 福祿寿車	車ノ町 後御車 益屋町 (住吉車) (後に茶屋町の所有)	神戸町 神戸車楽 戦災焼失
宮町 唐子車 戦災焼失	住吉町 河水車 新出来町へ譲渡	<旧名古屋村> 新道町 殺生石車 戦災焼失	伝馬町 伝馬車楽 戦災焼失
京町 小鍛冶車 戦災焼失	門前町 陵王車 戦災焼失	新道町 翁車 戦災焼失	中瀬町 瑞穂車 博物館へ寄贈
中市場町 石橋車 戦災焼失 (先代車を星崎へ譲渡)	橋町 鶴車 氏子違いで廃車	郷 散手車 戦災焼失	富江町 富江車楽 戦災焼失
本町 狸々車 戦災焼失	矢場町二 迎車 所在不明	小伝馬町 湯取車 戦災焼失 (先代車を小牧へ譲渡)	須賀町 須賀車楽 戦災焼失
		万松寺町 浦島車 戦災焼失 (先代車を美濃へ譲渡)	広井八幡祭 4輛
		<旧広井村郷の内> 上ノ切 山車名不明 所在不明	下御園町 司馬温公車 廃車
		新屋敷 神功皇后車 筒井町へ譲渡	御園片町 太公望車 廃車
		八(矢)切 山車名不明 所在不明	中御園町 山車名不明 火災焼失
		<旧広井村> 上花車町 紅葉狩車	桜町 山車名不明 火災焼失
		下花車町 二福神車 (先代車も浜松市宮口に現存)	洲崎天王祭 3輛
		中ノ切 張良車 西之口へ譲渡	花園町 舟車 久屋町へ譲渡
		内屋敷 唐子車	常盤町上 山車名不明 田原へ譲渡
		古江 神楽車 小牧へ譲渡	常盤町下 山車名不明 所在不明
		戸田道 弁天車 戦災焼失	浅間神社祭礼 1輛
		禰宜町 胡蝶車 火災焼失	明道町 舟車 常滑へ譲渡
		禰宜町 人形不定 所在不明	押切村天王祭 1輛
			本龍寺横町 石橋車 所在不明
			白山神社祭礼 1輛
			押切村榎町 山車名不明 所在不明
			筒井町天王祭 2輛
			筒井町 神皇車 新屋敷より譲渡
			筒井町 湯取車 桑名町より譲渡
			出来町天王祭 3輛
			新出来町 鹿子神車 住吉町より譲渡
			西之切 新出来町 石橋車 => 河水車 中之切 (戦災焼失) 住吉町より譲渡
			古出来町 石橋車 => 王羲之車 (戦災焼失) 新造
			大曾根祭 1輛
			大曾根町 胡蝶車 戦災焼失
			武塔天神祭 1輛
			相生町 浦島車 星崎へ譲渡
			志水八王子祭 3輛
			西杉村出町 王子丸 戦災焼失
			上之切 西杉村出町 石橋車 戦災焼失
			中之切 西杉村出町 唐子車 牛立へ譲渡
			中之切
			金刀毘羅神社祭礼 2輛
			久屋町三 比佐古車 戦災焼失
			久屋町四 琴平丸 戦災焼失
			松山神社祭礼 1輛
			松山町 松山丸船車 戦災焼失
			富士権現祭 1輛
			駿河町 山車名不明 大森へ譲渡
			東田町天王祭 1輛
			東田町 山車名不明 所在不明

現存数 10輛 (70輛中)

室町時代から明治時代に建造され、各祭礼に曳かれた山車は70輛を数える。隆盛を誇った名古屋(旧城下町・旧熱田町)の山車も戦災焼失や譲渡等で現在は10輛(戦後新造1輛含む)を数えるのみとなった。

【旧城下町・旧熱田町以外で現存する山車 12輛】

- ・市博物館 瑞穂車(旧熱田大山祭 中瀬町 瑞穂車)
- ・有松祭 布袋車(旧若宮祭 下玉屋町 布袋車)
- ・美濃祭 舟山車(旧若宮祭 末広町 先代黒船車)
- ・美濃祭 鞆車 (旧三之丸天王祭 益屋町 鞆猿車)
- ・美濃祭 浦島車(旧三之丸天王祭 万松寺町 先代浦島車)
- ・西之口祭 雷神車(旧三之丸天王祭 広井村中ノ切 張良車)
- ・宮口祭 三階屋台(旧三之丸天王祭 下花車 先代二福神車)
- ・小牧秋葉祭 湯取車(旧三之丸天王祭 古江 神楽車)
- ・牛立天王祭 牛頭天王車(旧志水八王子祭 西杉村出町 唐子車)
- ・田原祭 応神天皇車(旧洲崎天王祭 常盤町 山車名不明)
- ・本地星宮祭 宮本車(旧武塔天神祭 相生町 浦島車)
- ・大森天王祭 天王車(旧富士権現祭 駿河町 山車名不明)

「注」文政8年の猿猴庵日記に名古屋村(巾下)に12~13輛の存在を記録している。